

eポートフォリオを利用した作文指導に対する

学習者のナラティブ分析

—振り返り活動が定着しなかった学習者の背景と ICT 教育の課題—

毛利 貴美 (早稲田大学)

中井 好男 (大阪大学)

1 はじめに

本研究は、eポートフォリオを用いた作文指導プログラムにおいて、学習者が自己の振り返りや誤用修正の活動をどのように評価していたのかを明らかにするものである。調査には、教師との対話を通じて「学習経験」を理解するために Narrative Inquiry(Clandinin & Connely 2000)を用いて分析を行った。本稿では、eポートフォリオにおける振り返り活動が定着しなかった背景と ICT 教育の課題について報告する。

2 調査の内容

調査を行ったのは、関西の私立大学留学生別科の初中級レベルの文章表現のクラスである。授業では、1学期間に約14回、学習者が教師から作文のフィードバックを受けた後、書き誤りの箇所と誤りの理由を「気づきシート」に記入し、清書とともにeポートフォリオ上に提出する活動を行った。この授業は、初級を終えた学習者の作文における文法や語彙の誤用への気づきを強化すると同時に、コンテキスト上での習得の促進を目的としており、eポートフォリオを用いて学習者が自己の作文の振り返りと修正を繰り返すことで自律的な学習の生起が期待された。

2.1 調査の方法

調査ではeポートフォリオを利用した作文指導について、2014年1月から2015年3月の学期末に留学生72名に対してアンケートを行った(調査1)。次に、その中から無作為に選んだ留学生42名に対して活動に関わっていた教師がインタビューを行い、その結果を全て録画・録音し、文字化をしたデータを分析した(調査2)。

2.2 調査の結果

調査1のアンケート結果では、eポートフォリオに関しては、「提出状況がわかる(57%)」「蓄積・振り返りができる(40%)」といった、自己管理が可能なメタ認知的な機能に効果を感じていることがわかった。

調査2のインタビューでは、学習者のコメントから「作文を書く前に、前回の誤用を意識して、同じ間違いを事前に回避しようとする」「eポートフォリオによる活動が終了した後に、自分自身で気づきシートを作成し、振り返り活動を継続している」「eポートフォリオに蓄積された半年前の自分の作文を見ることで習得の実感を得て学習動機を継続させている」ことがわかり、毛利・中井(2014)の結果と同様に自律的な習得の過程が確認された。

一方、振り返り活動が定着しなかった学習者には以下のような要因が背景にあった。

<振り返り活動が定着しなかった要因>

要因1：母国での指導法の影響(24/42名)

「中国では、あまり先生が添削してくれない。添削してくれても清書はしない(NNS4:中)」

「清書したことないから清書する意味がわからない(NNS5:伊)」→**学習の習慣が既に形成**

要因2：ICTやeポートフォリオシステムの利便性 (20/42名)

「提出とクイズ以外、使っていません。あまりパソコンとかインターネットはすきじゃないから。本とかの方が好き(NNS6:仏)」→ICTに親近性やシステムのメリットを感じない

要因3：言語能力の不足によって誤用を自己解決できない (18/42名)

「わかったことのメモが英語でもうまく説明できない。例えば私の場合は助詞の間違いが一杯あるから。説明が苦手(NNS9:尼)」→**メタ的に間違いを説明できない**

要因4：学習スタイル (17/42名)

「間違いの理由が合っていないなら不安になるから、もう一度先生がフィードバックしてくれたら、もっと安心だったと思います。自分では100%にしたいから(NNS13:仏)」

→**教師依存(学習は最後まで教師が管理すべきというビリーフ)**

要因5：学習の優先順位(11/42名)

「他のテストのためにいい点数を得たい。文法とか語彙の復習のほうが効果的。(作文の振り返りは)勉強の時間が減ります(NNS15:中)」→**進学のための暗記科目を優先**

3 まとめ

eポートフォリオによる振り返り活動が定着しなかった要因は「面倒で、作業の過程が多く、手間がかかる」「インターネットを介することで学習の場が遠く感じる」「作業時間が長く、上達の実感を得られるまで長期間かかる」といったICTによる学習や自律学習への低評価が背景にあった。一方で、学習者は学習のスタイルとして、「安全、確実に習得ができる科目や方略」「身近で親近性のある媒体(紙)」「短時間で完了、短期間で習得」を選択する傾向があり、これには進学目的や母国での学習経験が影響していると考えられた。

自己の学習の振り返りなどの自律的学習の経験が少ない学習者にeポートフォリオを学習ツールとして継続して活用してもらう方法としては以下の3点が挙げられた。

- ① 振り返り活動など自律的な学習による成功者の事例を最初の授業の段階で明示するなど、学習の意義についての理解を深め、学習の動機づけを行う。
- ② 学習者に自分自身のアウトプットの問題への意識づけとそれに基づいた学習課題の設定を促すとともに、その項目を中心とした活動に移行する。
- ③ コース全体を通して自己評価する場を複数回設け、誤用の数値を出す等、習得の状況を可視化できるようにする。

<参考文献>

Clandinin, D. J. and Connelly, F. M. (2000) *Narrative inquiry: experience and story in qualitative research*. San Francisco: Jossey-Bass.

毛利貴美・中井好男(2014)「eポートフォリオを利用した作文指導の実践－『気づきシート』の活用による自律学習能力の習得を目指して－」,『日本語教育学会第10回研究集会予稿集』 pp.70-73.